

ソーシャルワーカーを目指す
皆さんへ



おがたに病院

地域に根差したチーム医療を目指して

在宅を支えるネットワーク



診療所

- ・さくら診療所・高畑診療所
- ・新大宮診療所・佐保川診療所
- ・片桐民主診療所・小泉診療所

介護老人保健施設

- ・やくしの里

地域包括支援センター

- ・春日飛鳥地域包括支援センター
(奈良市委託)
- ・郡山第二地域包括支援センター
(大和郡山市委託)

メディカルフィットネス

- ・あおがき(さくら診療内)

病院

- ・おかたに病院



訪問看護ステーション

- ・ぬくもりポート
- ・あじさい

事業所内保育

- ・のぞみ保育所

デイサービスセンター

- ・デイサービスセンターせいび

居宅介護支援事業所

- ・岡谷会ケアプランセンター
- ・岡谷会ケアプランセンターつくし
- ・片桐ケアプランセンター

(障害) 自立支援相談事業所

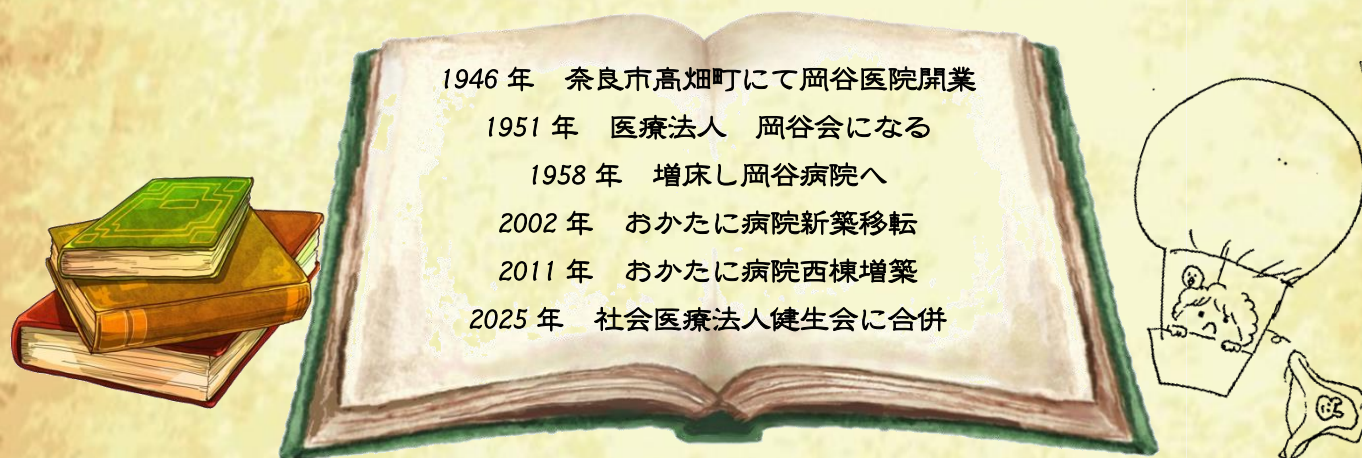
- ・岡谷会相談支援センター

ヘルプステーション

- ・岡谷会ホームヘルプステーション
- ・岡谷会ホームヘルプステーション郡山

おかたに病院の経営理念

「年をとっても、障害を持っても、住み慣れた地域でなじみの人にかこまれ、最期まで人としての尊厳をもってすごしたい。このような当たり前の地域の人々の要求を支え、実現すること」を理念とし、地域に住む人々を医療・介護から支え、愛される医療機関を目指しています。



おかたに病院患者支援課の目指すこと

患者支援課は社会福祉士・看護師・事務といった多職種で構成されています。私たちは民医連や法人の理念、各資格の専門性を大事にした上でソーシャルワークを学んでいます。相談に来られる方の背景を知り「患者さん家族さんのいるところ」から考えることができるよう『おかたに病院 患者支援課 めんどくみのよい病院5か条』を掲げています。



5 学び続けます
1～4を実践し支援者自身が支援に自信をもち楽しく仕事ができるよう支え合い育ち合います



4 連携します
ご本人が安心していただけるよう、院内や各専門機関とよりよい連携を大切にします



3 お伝えします
必要な情報を分かりやすくお伝えします
社会に問題提議します



2 お聴きします
傾聴を大切にし、ご本人に寄り添います



1 権利を守ります
ご本人が不利益にならないように、権利を守ります



いちにち ソーシャルワーカーの1日

9:00

朝の申し送り



申し送りが終わったら
病棟で前日入院された患者さんの情報収集などを行います。

自己紹介にはこんな⇒⇒
パンフレット使います。



入院前の相談や退院に向けた相談など
家族と面談することもあります。



12:00

交代で休憩



13:00

ベッドコントロール会議



患者さんの
自宅訪問にも行きます。
時に、鹿に会えます。



午前や午後に、院内の多職種と
カンファレンスをしています。
ケアマネジャーなど地域の事業所
とのカンファレンスも頻回にあります。

その日の出来事を
電子カルテに記録し
ます。また、相談内容
などの統計もとって
います。

病院訪問も
行きますよ。



17:30

終わりの会

『終わりの会』で終了。
院内は 1～5 階まで移動する
ので各自 PHS（院内電話）を
持ち、予定を立て仕事をして
います。

ソーシャルワーカーの相談内容は様々です

患者さん、
ご家族と話
(面談・電話など)



院内多職種との
情報交換や話し合い
など

患者さんより
「退院後の生活が不安・・・」
「専門用語が多くて分からない」
など



在宅関係者
からの相談

他院との連携
(転院相談や情報
交換など)

施設の選定に
寄り添う

住宅環境の
確認など
自宅訪問

困難ケースの
ネゴシエーション

外来患者さんの
相談対応

リハビリ入院
レスパイト入院
の相談

介護保険関連
の相談



経済的な相談

ご家族より
「制度が難しくて分からない」
「入院費はどうなるの？」
など

無料低額診療事業
の相談

身体障害者手帳
の相談



情報の発信

成年後見制度
の相談

地域との連携
(行政との連携や
地域の会議など)



患者支援課スキルアップ

対人援助の仕事は「本当にこの支援で良いのか」など支援に悩むことばかりです。

また組織や制度のなかで、理想と現実との違いに悩むこともあります。

患者支援課では、様々なプログラム（以下）を職場内で考えながら取り入れ、『支え合い、育ち合える』対人援助職の育成と職場環境づくりに取り組んでいます。

一人で抱え込むことがないような体制と個々の能力に合わせた技術のスキルアップ、さらに各専門職としての視点や価値が向上していくことを目指しています。





個別スーパービジョン(個別 SV)…現在の業務をふりかえり、より良く仕事・支援を实践できるよう、またバーンアウトを予防も目指し 1 対 1 で行います。



グループスーパービジョン(GSV)…ケースの共有を行い他の SW の支援や支援観を知る、また忙しい業務の中でも立ち止まってケースを振り返り、整理することができるよう相談支援に関わるスタッフで行います。



トピックス…共有したい、意見を聴きたい、相談したい等について毎朝一人ずつ話をする機会を持ち、話すことが苦手なスタッフも話をして共有できる場を持っています。



承認デイ、いいところ探し…仕事のモチベーション向上や、人間関係をよりよく、相談しやすくするためにまずは身近な人に興味を持ち良いところを認め合うことを行います。



係活動…部署内で学習係、目標係、感染係の 3 つの係に分かれて、業務軽減や環境改善を図り働きやすい職場環境づくりに取り組みます。



学習発表…研修などに参加するだけでなく、自分の言葉で伝えることによってより学びが深まります。また、参加していないスタッフも研修内容を知り学ぶことができます。



事例検討会…対人援助職の総合学習材料として、2 か月に 1 回行われています。否定されない事例検討会を目指し、患者さん家族さんの背景を考え、多角的な視点を身に付ける練習をしています。



実習生の受け入れ…後進の育成を行います。実習生に日ごろ実践しているソーシャルワークを言語化することができます。さらに自らの支援を丁寧に振り返り質の向上を図ります。



その他…ソーシャルワーカー部会へ参加し制度や知識の習得、専門職研修、情報交換に努めます。また各専門職団体への参加や、外部研修への積極的参加を推奨し、自らの支援を発表するなど専門職として質の向上を目指します。



法人内地域包括支援センターから異動してきたばかりの頃は新しいことばかりで戸惑いもありましたが、職場の仲間は皆スーパービジョンについての知識がありますので、丁寧に指導してもらいました。

(26 年目 社会福祉士)

病棟から今の部署にきて、ソーシャルワークを初めてする私も皆さんに教えていただきながらケースの担当もさせてもらっています。刺激を受けて日々成長しています。



(12 年目 看護師)

支え合い
育ち合う職場です
(楽しくスキルアップ)



経験も少なく実践の場で悩み戸惑うことが多いですが、定期的なスーパービジョンを通して一つひとつ乗り越えることが出来ています。一人で抱えることなく支え合いながら知識、技術、価値を知ることが出来る、学びの多い職場です。



(7 年目 社会福祉士)

ソーシャルワーカー部会 ～法人内の専門職部会～

法人内には、職場を越えてソーシャルワーカー(以下 SW)がつながり、ともに勉強や活動を行い SW が支え合い、育ち合う SW の専門職部会があります。部会では、情勢を学び、研修会を開催し、通信を出すなど他職種に発信をしています。また、法人内で事例検討会を開催し、多忙な業務の中でもソーシャルワークとは何か、SW の価値とは何かという勉強を行うことで、自分自身の支援や姿勢を見つめなおすことができます。



私たちソーシャルワーカーも 支えられています



～その人らしく生きるを支える支援～

40代の若さでしたが引きこもりのAさんは高度肥満となり、ちょっとしたキズから敗血症で救急搬送となりました。危険な状態を乗り越え自宅探しからスタート。

年齢も若く、利用できる制度がないため地域で生活するための支援をどうするかが課題でした。Aさんとの関係を少しずつ築き、院内他職種と相談を重ねる日々。また保護課、保健所、障害担当者、社協等に働きかけを行い地域での生活に戻ることができました。

現在も地域での支援を受けながら生活されていますが、時々手編みのぬいぐるみを持ってきて下さいます。気持ちの表現が苦手なAさんの思いが伝わり、ぬいぐるみが1つずつ増えるごとに私たちの心を癒してくれます。

～心によりそい 安心してもらうために～

急性期の医療機関のSWさんより「Bさんのこと覚えていますか？」と突然電話。一瞬「えっ」と思ったのですが、2年前に、当院回復期リハビリテーション病棟に入院されていたときに関わった患者さんだと思い出しました。

今回は自宅で倒れているところを民生委員さんに発見され、救急搬送されたとのこと。

末期のがんであることが判明しました。おかたに病院で親身にしていただいたので、当院での最期を希望されているとのことでした。

転院後は身よりのないBさんの病室に何度もうかがい話しかけました。ご本人は発語が難しくなっていました。手をにぎって話しかけるとほほえみかえしてくれました。また、医師、看護師、言語聴覚士の見守りで、希望されたお寿司も食べていただきました。

SWのことを思い出して、おかたに病院を希望していただいたということにSWとして大きな喜びを感じ、続けていて良かったと思いました。



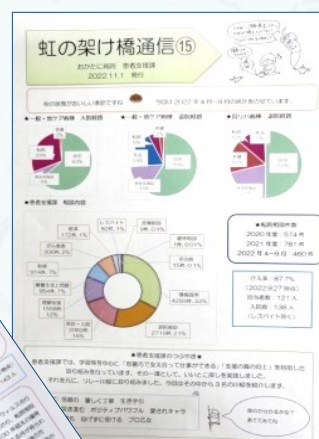
ぬいぐるみ♡



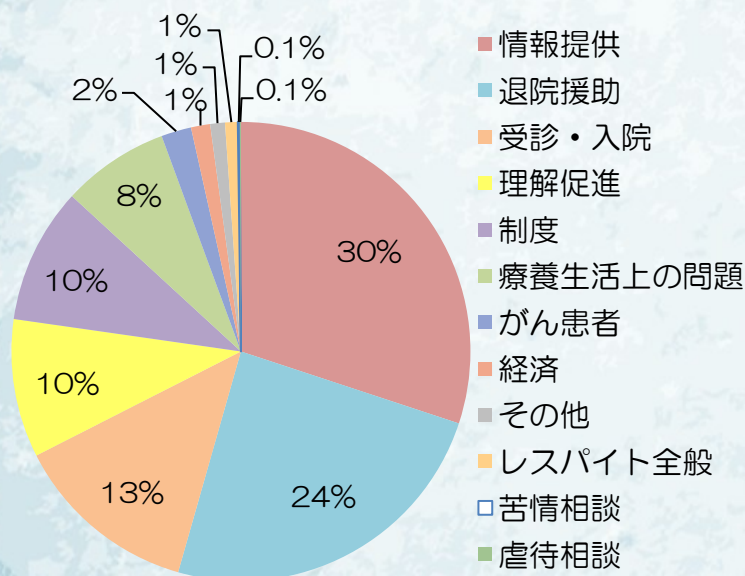
地域連携

○地域で支え合う関係や地域の福祉向上を目指すため、
地域で行われる行政・他医療機関・事業所との会議・活動などに多く参加しています。
また、日ごろのやりとりから市内や県内の他医療機関や各種事業所、他専門職など、
幅広く対応を行い顔の見える連携を大事にしています。

○日々自分たちの業務をふりかえり、見える化することを目指し、
様々な統計にも取り組んでいます。統計から見える
おかたに病院の状況は事業運営に役立つよう毎週管理部に
報告します。
また、たくさんのデータを管理部だけでなく
院内、法人内へ発信する取り組みとして
虹の架け橋通信 を発信しています。



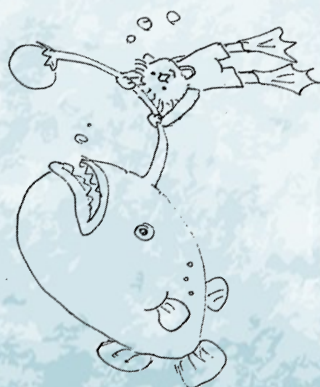
相談内容の割合



転院相談の多い医療機関

※年間 300 ヶ所以上の事業所と対面し連携

1	市立奈良病院
2	奈良県総合医療センター
3	天理よろづ相談所病院
4	高井病院
5	奈良県立医科大学附属病院





福 利 厚 生



○年間休日、有給休暇、結婚休暇、出産休暇、育児休暇など

○リフレッシュ休暇制度（10年毎に勤続祝いあり）

○研修等の諸活動手当など

○専門職団体（社会福祉士会等）の会費半額補助

○独身寮あり

○院内保育所あり

○法人共済会・民医連共済組合による給付あり

（結婚、出産、葬祭、宿泊助成、医療費一部負担金助成など）

休日の保障や手当
など福利厚生が充実して
います。

常勤で安心して長く
働き続けられています。





社会医療法人 健生会

おかたに病院

〒630-8141

奈良市南京終町 1 丁目 25-1

TEL : 0742-63-7700 FAX : 0742-63-7706

E-mail : soudan@kenseikai-nara.jp (患者支援課)

